

炭坑（1931）

KAMERADSCHAFT

LA' TRAGEDIE DE LA MINE [仏]

COMRADESHIP

メディア 映画

ジャンル ドラマ

製作国 ドイツ

色彩 B&W

時間 92分

初公開日 1932/09

公開情報 劇場公開

【解説】

独仏国境の炭坑で、爆発事故が起きた。ドイツとフランスの炭坑夫たちは国籍を越え、閉じ込められた仲間を救出するべく協力する。人間的な結びつきで救出にむかう彼らの姿を描いた、ヒューマン・ドラマ。

第1次世界大戦後の独仏国境に接した独ザール地方、敗戦間もないドイツの炭坑夫たちは、買い出しに出掛けたフランスの町でフランス人の冷たい態度にがっかりする。翌日フランスの炭坑で爆発事故が起こり、このニュースはドイツ側にも伝わった。ドイツの炭坑夫たちも同じ労働者同志の連帯感から救援隊を結成するが、フランス人に冷たくされた3人は参加しなかった。しかし、その3人も救出に向かうべく立ち上がり……。

さながらドキュメンタリー映画を観るような見事に再現されたセットと、劇音楽などの虚飾を廃し現実音による効果を有効に用いるなど、そのリアリズムに徹した演出によりヒューマンイズムがいつそう浮き立って見える。第1次大戦で受けた心の傷のエピソードや、来るべき第2次大戦へ警鐘を鳴らすシーンを交え、同監督の「西部戦線一九一八年」にみられる反戦の意識を伝えている。オリジナルは93分、日本での公開は検閲削除を含め84分。アメリカのナショナル・ポート・オブ・レビューのベストテンに選ばれた。

【クレジット】

監督 ゲオルク・ヴィルヘルム・パプスト Georg Wilhelm Pabst

製作 シーモア・ネベンザル Seymour Nebenzal

脚本 カール・オッテン Karl Otten

ペーター・マルティン・ランペル Peter Martin Lampel

ラディスラウス・ヴァホダ Ladislaus Vajda

撮影 フリッツ・アルノ・ヴァグナー Fritz Arno Wagner

ロベルト・バベルスケ Robert Baberske

出演 フリッツ・カンパース Fritz Kampers

アレクサンダー・グラナック Alexander Granach

エルンスト・ブッシュ Ernst Busch

グスタフ・ピッティア Gustav Puttjer

アンドレ・デュクレ Andree Ducret

ダニエル・マンダイユ Daniel Mendaille

ジョルジュ・シャルリア Georges Charlia

ピエール・ルイ Pierre-Louis

